

# 指導資料

 鹿児島県総合教育センター

## 音楽 第45号

- 幼稚園，小学校，特別支援学校対象 -  
平成26年4月発行

### 小学校低学年における音楽科学習指導 - 主に幼稚園教育との関連を考慮して -

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について」（平成22年11月）の報告の中で、双方の教育を一つのつながりとして捉え、学びの基礎力を育成するという考え方の必要性が示された。

小学校学習指導要領解説音楽編においても、「指導計画作成上の配慮事項」の中で、「低学年においては、生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第1学年においては、幼稚園教育における表現に関する内容などとの関連を考慮すること。」と明記されている。

そこで、本稿では、低学年児童の表現の特性や傾向を大切にしたい指導の在り方、幼稚園教育における表現領域と低学年の音楽科との関連、題材の指導計画の工夫等について実践例を基に述べる。

#### 1 低学年の音楽科学習指導の在り方

##### (1) 低学年児童の表現の特性や傾向

低学年児童は、生活の様々な場面で音楽に親しんでいる。例えば、音楽に合わせて体を揺らしたり、遊びに没頭する中で、体の動きに合わせて即興的な旋律を口ずさんだりといった行為はよ

く見られる。

幼児も、ごっこ遊びをする中で思い付いた歌を歌ったり、言葉やリズムを替えて指遊びを楽しんだりする。

すなわち、低学年児童は、幼児と同様に音楽を感覚的に捉える傾向がある。

これらのことから、低学年児童の表現の特性や傾向を大切にしたい指導を進める必要がある。

##### (2) 目標と指導のポイント

低学年の目標に照らし合わせて指導のポイントをまとめると、以下のようになる。

##### 小学校音楽科 第1学年及び第2学年 【目標】

楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。

基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。

様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育て、音楽を味わって聴くようにする。

##### 【指導のポイント】

ア 低学年児童の姿を大切に、音楽に対する興味・関心を育てる。

イ 低学年児童の自然な表現を受け止め、そのよさを伸ばしていく。

ウ 自分の感じ方を大切にしながら、音楽と向き合うことができるようにする。

##### ア 興味・関心

まず、低学年児童にとって魅力のある教材を取り上げ、音楽の楽しさを感じ

じ取れるような学習活動を展開し、音楽に対する興味・関心をもつようにすることが大切である。

イ 自然な表現

また、前述のような低学年児童の自然な姿を受け止め、夢中になって取り組むことができるような活動を工夫する。そのことにより、一人一人が音楽表現の楽しさに気付き、そのよさを伸ばしていくことにつながる。

ウ 自分の感じ方

そして、思わず動き出したくなるような楽曲などを選択することで、音楽活動に親しみをもつようにすることも大切である。その際、音楽全体の流れに浸りながら、低学年児童が自分の感じ方を大切にし、音楽と向き合うことができるような指導が求められる。

2 幼稚園教育の表現領域と低学年の音楽科

(1) 教育課程における関連

図は、幼稚園教育要領において、幼児の発達の側面からまとめてある5つの領域と、小学校低学年の教育課程で編成されている各教科等についての関連を表したものである。ここでは、幼稚園教育の表現領域と低学年音楽科について述べる。

幼稚園教育では、生きる力の基礎を培うために、5つの領域の内容を具体的な活動を通し総合的に指導する。つまり、遊びを通して学びの芽生えが育まれていくのである<sup>1)</sup>。

低学年の音楽科は、このことを意識し、

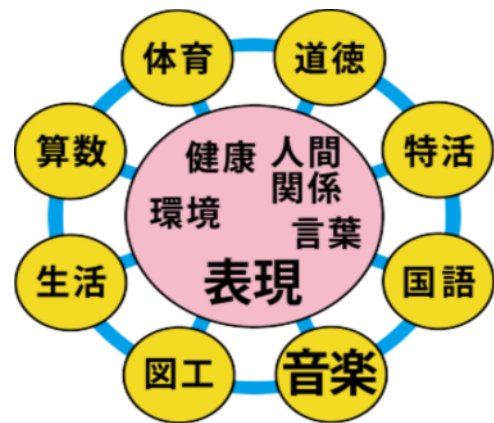


図 幼稚園教育の5領域と小学校低学年の各教科等との関連

特に関連の深い幼稚園教育の表現領域の内容を考慮することが、効果的な指導につながる。低学年の児童にとっては、音楽科という教科学習に対して自然に慣れていくことにもなる。

(2) 内容における関連

小学校音楽科の目標と幼稚園表現領域のねらいは、豊かな感性を育むという点で共通しており、内容面で関連する部分を示すと、以下のようになる。

【幼稚園教育表現領域の内容】	
2 内容	(1) 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
	(4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
	(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりするなど楽しさを味わう。

【小学校低学年音楽科の内容】	
A 表現	歌唱 イ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。
	器楽 イ 楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏すること。
	音楽づくり ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。 イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。
B 鑑賞	ア 楽曲の気分を感じ取って聴くこと。 イ 音楽を形づくっている要素のかかり合いを感じ取って聴くこと。

幼稚園教育では、情意面の成長が不十分な幼児が増えている現状を考慮し、表現領域の内容（１）の中に「感じたり」という言葉を加え、豊かな感性を育むことを意識した教育の充実に努めている。

低学年の音楽科では、歌唱、器楽、鑑賞の指導内容の中で、「楽曲の気分（曲想のうち、低学年児童が感じ取りやすい気分を取り上げたもの）を感じ取って」と表し、低学年段階での音楽に対する感性を育てていくよう示されている。

幼稚園教育の表現領域で育まれてきた豊かな感性や表現する力を一層高めるために、実態等に応じて弾力的な指導を効果的に進めていくことが重要である。

### 3 実践例

ここでは、表の指導計画例を基に、低学年における題材の指導計画作成上の工夫等について述べる。

#### (1) 主な学習内容

教材「森のカーニバル」を鑑賞しながら身近な楽器の音色の違いに気付き、身の回りの物の音と併せて音遊びを楽しんだり、教材「虫のこえ」を自分でつくった秋の音と合わせて歌ったりする。

#### (2) 題材の指導計画作成上の工夫

##### ア 指導上の留意点

低学年児童は、感情と体験が密接に結び付くといった幼児と同じような発達の特徴をもち、体験を通して感じたことや考えたことなどを常に自分なりに組み換えながら学んでいる。このような発達の特徴を理解し、幼稚園教育

で育まれた学びの芽生えを生かすことが大切である。

例えば、表の第１時から第４時にあるように、導入で幼稚園で慣れ親しんできた遊び歌や季節の歌を取り入れることで、これまでの体験が自然に思い出される。すると、そこからよりよい表現にしようと新たな興味・関心や気付きが生まれ、音楽科における学ぶ楽しさを感じ取っていくことにつながる。

#### イ 他教科等との関連

題材全体を通し、どの学習活動に対してどの他教科等の内容と関連があるのかを示すために、表の指導計画例の中に、「他教科等との関連」という項目を設定した。

例えば、第１時は、身体表現をしながら楽曲の気分を感じ取る学習活動を計画している。体育科の内容「F表現リズム遊び」の「（１）次の運動を楽しく行い、題材になりきったりリズムに乗ったりして踊ることができるようにする。」と関連をもたせ、題材と単元を選択する時期を合わせることで、学習指導の充実に結び付けることができる。指導計画例に示すように、国語科や生活科といった他の教科との関連的な指導も考えられる。

以上のことから、教師が、低学年児童の発達の特徴を踏まえ、幼稚園教育との関連を考慮した指導や他教科等との関連をもたせた効果的な指導を行うことで、低学年児童は、より広がりのある表現活動を通して、楽しみながら学んでいくことができる。

表 「いろいろな音にしたしもう」指導計画例

題 材 名		「いろいろな音にしたしもう」(全5時間)			
題材の目標		音に対する興味・関心をもち、音色の特徴を生かしながら音の出し方を工夫して表現することができる。			
題材の評価規準		音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
		身近な楽器の音色や身の回りの物の音の面白さを感じ取り、音色の違いに興味や関心をもって、音遊びや音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。	身近な楽器の音色や回りの物の音の特徴を聴き取り、それらの働きがよさや面白さなどを感じ取りながら音の出し方を工夫している。	身近な楽器の音色や身の回りの物の音の特徴を生かして音遊びをしたり、音を音楽にしたりしている。	楽曲の気分や、音色、強弱、リズムといった音楽を形づくっている要素との関わり合いを感じ取って聴いている。
次	時	教材	主な学習活動	指導上の留意点	他教科等との関連
第1次	1	「森のカーニバル」	<p>どんな音がきこえてくるか、耳をすましてききましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自由に身体表現をしながら季節の歌を歌う。</li> <li>楽曲のイメージをつかんで身体表現しながら聴く。</li> <li>聴こえてくる打楽器の音色に気を付けて聴く。</li> </ol>	幼稚園で親しんできた遊び歌を取り入れることで季節感を意識したり、身体表現を楽しんだりしながら学習に集中し、次第に打楽器の音色をじっくり聴くことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園教育【表現】</li> <li>2 内容(1),(4),(6) 「どんぐりころころ」</li> <li>体育科【F表現リズム遊び】単元「リズム遊び」</li> </ul>
	2	「また手をしたよきう」	<p>いろいろな音から好きな音を選んで、じぶんでつくった音やことばであらわしましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>リズム遊びをする。</li> <li>聴こえてくる音を発表する。</li> <li>好きな音を見付け、身近な楽器や身の回りの物をならしたり、その音を言葉で表現したりする。</li> </ol>	聴こえてきた音を発表する時、教師がカードに言葉で書き表して掲示するなど、音の視覚化を図り、様々な音への興味・関心を高めるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園教育【表現】</li> <li>2 内容(1),(4),(6) 「手をたたきましょう」</li> <li>国語科【読書こと・聞くこと】単元「おはなしきいて」</li> </ul>
第2次	3	「まっかな秋」	<p>みのまわりのがっきやものならしかたをくふうして、あきの音をあらわしましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>季節の歌を歌う。</li> <li>季節の歌や生活科で学習したことなどから、秋の音を見付ける。</li> <li>音の鳴らし方を工夫して秋の音をつくる。</li> <li>つくった秋の音を二人組で秋の音楽にする。</li> <li>つくった秋の音楽をみんなで聴き合う。</li> </ol>	身の回りの物と併せ生活科の学習で見つけた木の実や落ち葉なども音づくりに生かすようにする。(写真)	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園教育【表現】</li> <li>2 内容(1),(4),(6) 「まっかな秋」</li> <li>生活科【内容(5),(6)】単元「あきともだち」</li> <li>図画工作科【表現(1),(2)】題材「みのまわりのざりりょうをのしくつって」</li> </ul>
	4		<p>あきのようすをかんじてうたいましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>季節の歌を歌う。</li> <li>前時でつくった秋の音を歌に合わせる。</li> <li>秋の様子を感じ取り、思いをもって歌う。</li> </ol>	秋の音づくりなど、これまでの表現を生かしながら、自分の考えや願いをもって歌えるようにする。	
第3次	5	「虫のこえ」	<p>あきのようすをかんじてうたいましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>季節の歌を歌う。</li> <li>前時でつくった秋の音を歌に合わせる。</li> <li>秋の様子を感じ取り、思いをもって歌う。</li> </ol>	秋の音づくりなど、これまでの表現を生かしながら、自分の考えや願いをもって歌えるようにする。	

幼稚園教育で育まれた感性を土台に、低学年段階の音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養うための授業を積み重ねていくことが、次の中学



写真 秋の音づくりの様子

年段階の音楽科学習につながる。

- 引用・参考文献及び註一

- 『学びの芽生えを育む幼稚園教育』平成25年、鹿児島県総合教育センター指導資料幼児教育第16号を参照  
文部科学省『小学校学習指導要領解説音楽編』平成20年、教育芸術社  
文部科学省『小学校学習指導要領』平成20年、東京書籍  
文部科学省『幼稚園教育要領』平成20年、教育出版  
『幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)』平成22年、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査協力者会議  
『幼小連携の進め方に関する研究』平成15年、岩手県総合教育センター

(教職研修課)



